京都クオリアフォーラム会報

複数の企業・大学による
共創・人材育成

Vol.3
2024年秋号

京都クオリアフォーラムは、
京都に根ざす大学と企業が互いの垣根を越えた交流を通して
「知の共鳴場」を実現すること、そこから新たなイノベーションを創出し、
社会実装を通して日本の科学技術、産業界に貢献し、世界をリードする
人材を輩出することを目的として設立されました。

京都クオリアフォーラム

KQFの「Q」は京都クオリアフォーラムが目指す「知の共鳴場」というコンセプトから、水面に立った波紋が干渉する様子を表し、京紫と鴨川の流れの水色を取り入れました。

INDEX

理事あいさつ
株式会社村田製作所　代表取締役副社長　岩坪 浩
京都工芸繊維大学　学長　吉本 昌広

活動トピックス
■ テーマ探索グループ活動報告
■ 人材育成グループ活動報告

会合・イベント
「IVS 2024 KYOTO」サイドイベント
京都クオリアフォーラム 2024年度定時総会

理事あいさつ

企業代表理事　**岩坪 浩**

株式会社村田製作所　代表取締役副社長

京都クオリアフォーラム（KQF）の正式発足は、コロナ渦の 2021年 5 月でした。それに先立ち幹事会発足を 2020年に行い、私自身幹事長を拝命して、産学さらには行政（府・市）への説明資料を作成するなど、それなりに時間を割いたのが昨日のことのように思い出されます。

先日、関東でも大学の共創センターが独自にイベントを開催。経産省、行政、スタートアップなどの幅広い層から約 200 名が参加され、運営もそういう生業のスタートアップが担っていました。参加者の皆様が口々に「お互いを INSPIRE しながらイノベーションを加速したい」というのが印象的でした。私はここ幸いと KQFの名も出しつつ、「お互いを知らない人が一緒にやるのは難しい。そういう意味では『お互いを知ろうの会』とはよくぞ名付けてくれたし、継続しているのは素晴らしい」とあらためて思いました。座学でなく、動いてみるということを大事にしようと活動する分科会も、大きな一歩だと感じます。それも大上段に構えず、「small success を大事にしています」とコメントしてきました。

弱くなった日本を何とかしたいという思いで、首都圏、地方問わず、いろんなところで似たような活動が立ち上がってきています。KQFも京都の社会課題を解決して、それがビジネスにつながるサステナブルなものを目指したい。その意味でも、そろそろもう一段ギアを上げる仕掛けを考え、京都から発信された小さな成功が日本の他の地域での賛同も呼び、大きな波を起こせたらいいなと妄想しています。

会員の皆様のこれまで以上の積極的な提案、参加をお願いします。

理事あいさつ

アカデミア代表理事　**吉本 昌宏**

京都工芸繊維大学　学長

これまで大学教員として産学連携を経験し、実用化に多少なりとも貢献できたと手ごたえがあったり、企業における研究開発の難しさを痛感したりしてきました。「産業は学問の道場なり」という言葉があるように、このような産学連携を通じて、工学は社会で実際に使われてなんぼということと、産業界の現場で揉まれることによって基礎研究力も上がるということを実感しております。

京都クオリアフォーラムは、8 企業と 7 大学が、それぞれ産業と学問の視点から本音を語り合い、またイノベーションに向けた研究テーマの設定と次代を担う人材育成について企業の視点を深く知り、交流できる貴重な場となっています。本フォーラムのさらなる発展に向け、貢献してまいります。

■ テーマ探索グループ活動報告

テーマ探索グループ　主査　西方 健太郎（(株）堀場アドバンストテクノ　代表取締役社長）

テーマ探索グループでは、KQFの会員が協力して解決策を研究できる課題を見つけようとしています。恒例イベントとなった「お互いを知ろうの会」で京都が抱える課題や会員がもつ技術シーズについて知見を共有し、「健康・医療・介護」「スマート農業」「エネルギー・モビリティ」の３つの部会でさらに具体的なテーマ探索活動を推進しています。

2024年度は、行政やスタートアップ事業者など会員以外の方とも交流を促進し、具体的なテーマで連携していくことも視野に入れて活動の幅を拡げていきます。

お互いを知ろうの会

2024年４月11日に島津製作所本社において、「第５回お互いを知ろうの会」を開催しました。本会は、会員同士がFace to Faceで交流することでそれぞれがもつニーズ・シーズに対する理解を深め、それらを結び付けてイノベーションにつなげることを目的とするものです。第５回は完全にリアルの開催となったことで、すべての会員大学・企業から約100名が集いました。

会員大学・企業から、現在進めている研究内容や解決に向けたアイデアを講演やポスタープレゼンとして紹介されました。企業の参加者にとっては大学で進められている先端研究の知が、大学の参加者にとっては企業のもつ商品化力がそれぞれに魅力的に映り、和やかさがありながらも真剣に意見を交わす京都らしい交流の場となりました。

そのほかに、試作品など９件の実機展示を持ち寄って「技術を体験」し、また、京都府やスタートアップ事業者２社の方を招待し環境分野や農業分野での先進的な取り組みを紹介いただくなど、新しい試みによって新たな知見や技術を知ることができました。

各部会の活動報告

テーマ探索グループでは、「健康・医療・介護」「スマート農業」「エネルギー・モビリティ」の３つの部会を立ち上げ、活動を行っています。

１．健康・医療・介護部会

「歩行」と「子どもの健康」の分野に焦点をあてて活動しています。歩行分野では、健康寿命を延ばすために重要な要素となる歩容を解析するための技術シーズを各会員が持ち寄り、京都府立医科大学にて「歩行を測ってみようの会」を開催いたしました。また、子供の健康分野では、成長に欠かせない睡眠やストレスをテーマに会員の強みを生かすことができるニーズを探っています。さらに、在宅医療分野にも目を向け有識者との意見交換を行うなど、活発に活動をしています。

２．スマート農業部会

会員の大学や企業が共同研究できる分野を特定するために、農業に関して先進的な試みを行っている施設の見学会を行っています。テクノロジーだけでなく、地域の伝統や特性にあわせたソフト面の取り組みも必要であることに気づきました。テーマ探索にあたっては、狭い意味での農業に拘らず視野を広げて、「林業」や「昆虫食」という分野にも目を向けていきたいと思います。

３．エネルギー・モビリティ部会

すでに進んでいる省エネ・創エネにこだわらず、新しい視点でのテーマ探索に挑んでいます。エネルギーマネジメントシステムや小型の風力発電などの情報を共有し、会員が相互に協力できるテーマを探していきます。

■ 人材育成グループ活動報告

人材育成グループ　主査　増田　新（京都工芸繊維大学　理事・副学長）

本グループは、アカデミアと産業界の枠を超えた対話を通じて、大学と企業が育成すべき人材像を共有し、未来を切り開く人材を育むための交流の場を提供しています。産業界とアカデミアが良好な関係を築いてきた京都の伝統を生かし、現在、「博士課程学生キャリア支援」「人材育成本音トーク」「リカレント教育」を三本柱としています。いずれも KQF メンバー間の本音の意見交換をベースに事業を進めており、個別の交流の場から、産学協働による人材育成プラットフォームへの進化の様相を見せ始めています。

産学共創リカレント・リスキル教育プログラム

クリックすると
大きくなります。

大学が提供するリカレント教育プログラムは、企業にとって魅力的なのか？　逆に、企業が必要とする教育プログラムとは何なのか？　それは大学から提供できるのか？　そのような問いから始まった取り組みも今年で 4 年目を迎えています。大学においてリカレント教育プログラムを企画する際には、まず「この内容を世の中に知らしめたい、こんな教育を提供したい」といった思いがあり、それが駆動力となりながらも、受け手の特定やニーズの実情のリサーチにはなかなか手が届きませんでした。もし、プログラムの企画時点から受け手との十分な摺り合わせが行えれば、もっと的確な手段での教育が行えるはず。まずはスモールスタートから、と始まったこの試みは、2 年目からは KQF 全体に拡大し、年 2 回の定期的な意見交換会をベースに、新規プログラムの提案や、企業側からのフィードバックのプログラムへの反映、要望に応じた特典的なプログラムの展開など、大学側と企業側の様々なアイデアを双方向に活かす仕組みが軌道に乗り始めています。プログラムは現在では 5 大学 19 プログラムまで拡大、より広い層にご利用いただきフィードバックをいただくことで、より良い方向への展開が可能になります。企業メンバーや大学メンバーのより一層のコミットをぜひお願いします。

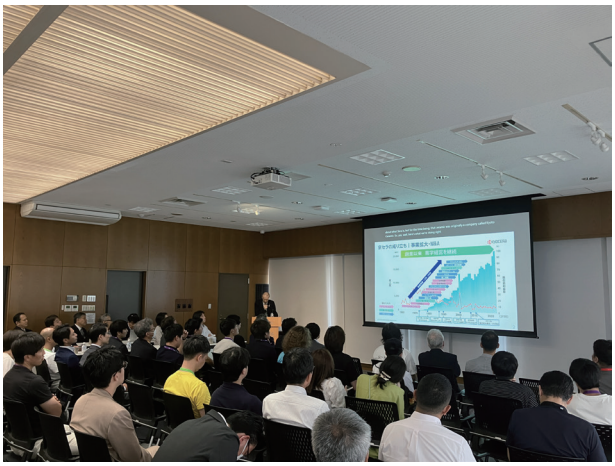
博士キャリアメッセ KYOTO

クリックすると大きくなります。

高度専門人材である博士後期課程の学生がイキイキと活躍できる社会を、京都・奈良から作り上げることを目指してスタートした博士キャリアメッセ KYOTOも今年で 4 年目、ようやくオール対面での開催が可能になりました。学生と企業双方にとってより良い場としていくために、月 1 度という高頻度で各大学の教職員が継続的に集まり知恵を出し合っています。7月17日に開催した第 1 部では、博士ホルダーの講演に 110名（うち学生 53名）、交流会に 84名（うち学生 31名）のご参加をいただき、高い満足度と好評を博しました。11月 1 日には同志社大学において第 2 部を開催いたしました。52 名の博士学生がエントリーし、ショートトークとポスター発表を行いました。京奈地域の意欲ある博士学生が 50名規模で揃う貴重な機会となり、企業メンバーも多く参加し活況な内容で終了しました。今後も、企業メンバーの積極的なご参加をお待ちしております。

会合・イベント

「IVS 2024 KYOTO」サイドイベント



2024年7月4日から6日にかけて、日本最大級のスタートアップピッチイベント「IVS 2024 KYOTO」が、伏見区の京都パルスプラザで開催されました。1万人を超える国内外の起業家や投資家が京都に集い、新しいイノベーションの創出のきっかけとするイベントです。開催期間中には、メインイベントのほかにも300を超えるサイドイベントが行われ、参加者どうしが交流を深めました。

京都クオリアフォーラムも、7月4日に京セラ株式会社稲盛ライブラリーにおいて、「ここでしか聞けない創業ストーリー ～すべての企業が最初は“スタートアップ”だった～」と題するサイドイベントを主催いたしました。京都で創業した株式会社SCREENホールディングス、株式会社島津製作所、株式会社村田製作所、株式会社堀場製作所、京セラ株式会社の会員企業5社が、スタートアップ企業の経営者やこれから起業を目指す方を対象に、「創業期や成長のきっかけとなったエピソードをスタートアップ経営者やこれから起業を目指す方に紹介しご参考にしていただければ」という想いで講演したものです。

登壇した各企業は、その創業期や成長期にアカデミアや他の企業のご指導・ご協力をいただきながら新しいイノベーションを起こしており、それらの事例やそれを支えた創業者の想いを「温故知新」に繙くことで、今を走る起業家の皆様とともに多くの学びを共有いたしました。また、登壇企業同士にも思いがけない結びつきがあったことを再発見するなど、オープンイノベーションの重要性をあらためて認識する機会となりました。講演後も多くのご来場者と登壇者が活発に意見を交換し、交流を深めることができました。

京都クオリアフォーラムは、大学・企業・行政等の共創活動を通して、新たな京都発のイノベーションを創出し、社会課題の解決を目指します。

京都クオリアフォーラム 2024 年度定時総会

2024 年 6 月10 日（月）の16時から京都駅近くのザ・サウザンド京都において、2024 年度定時総会が開催されました。

堀場会長による開会のご挨拶の後、新しく代表者に就任された京都工芸繊維大学の吉本新学長から「KQF の活動を通して皆さんと活発に意見交換しながら連携を深めていきたい。テーマ探索にも貢献してさらに連携を深めていく」と力強いご挨拶がありました。その後、総会は、2023度の事業報告、2024 年度の事業計画案の報告と続き、それらに対して例年のごとく代表者による活発な意見の交換がなされました。

事業計画案では、テーマ探索事業において、従来から行っている「お互いを知ろうの会」の継続とスマート農業、健康・医療・介護、エネルギー・モビリティの 3 部会の活動計画の他、京都府の ZET-Valley 構想や IVS KYOTO 2024を通してスタートアップ事業者等との連携を深めていくことが提案されました。また、人材育成事業の計画においても、博士人材を支援する「博士キャリアメッセ」を継続する一方で、学生インターンシップと企業リカレント教育などで KQF 独自の人材育成プログラムの検討を進めることが提案されました。

その事業計画案に対して、多くの代表者から意見表明されました。たとえば、テーマ探索事業に対しては、人口減少や高齢化という課題に対して特定の地域を対象に複合的な課題解決案を提案し KQF の強みを発揮すべき、あるいは、環境問題に関する大学の研究資源を活かしてエネルギーや CO_2 問題に貢献すべき、といった意見がありました。また、人材育成事業に対しては、大学による公的なプログラムやリカレント教育プログラム、企業の持つインターンシップ制度などを整理して他の人材育成の取り組みとの差別化を図りたい、企業側にも従来の新卒一括採用だけではなく Job型雇用も含めた企業の求める能力を持った人材を探そうという動きがある、といったものです。いずれも大学、企業経営者である代表者がそれぞれの枠を超えて力を合わせることの大切さを訴えるものでした。

最後に、堀場会長から、前向きで活発な意見交換に対する感謝の意が表明され、自由で闊達な意見交換を通してこれからも継続して KQF の活動を活性化していきたいとご挨拶がありました。総会での代表者の活発な意見交換だけでなく、京都クオリアフォーラムを構成する会員全体が互いの強みを活かし、京都発のイノベーションを起こしていくように努めてまいります。

京都クオリアフォーラム理事会

アカデミア：小原 克博（同志社大学学長）、在間 敬子（京都産業大学学長）、塩崎 一裕（奈良先端科学技術大学院大学学長）、塚本 康浩（京都府立大学学長）、仲谷 善雄（立命館大学学長）、夜久 均（京都府立医科大学学長）、吉本 昌広（京都工芸繊維大学学長）
経済界：足立 正之（㈱堀場製作所代表取締役社長）、岩坪 浩（㈱村田製作所代表取締役副社長）、上田 輝久（㈱島津製作所代表取締役会長）、垣内 永次（㈱ SCREEN ホールディングス 取締役会長）、鈴木 順也（NISSHA ㈱代表取締役社長 兼 最高経営責任者）、樋口 章憲（三洋化成工業㈱代表取締役社長）、村田 大介（村田機械㈱代表取締役社長）、山口 悟郎（京セラ㈱代表取締役会長）

〒 600-8813
京都市下京区中堂寺南町134
京都リサーチパーク
ASTEM 棟 305 号室
https://kyoto-qualia-forum.jp/